The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	記念号刊行にあたって
Author(s)	和田, 章男
Citation	Gallia. 2008, 47, p. 1-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11736
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

記念号刊行にあたって

和田　章男

柏木隆雄先生が大阪大学文学部に赴任されて25年が経ちました。そして本年3月末日をもって定年退職されます。この四半世紀におよぶ期間、数多くの優れた研究業績を積まれるとともに、多くの優秀な人材を社会に送り出されました。先生の学恩に報いるべく退職記念事業会を発足させ、いくつかの企画を立てました。その中心となる事業は記念論文集『テクストの生理学』（朝日出版社、2008年3月刊）の刊行です。大阪大学フランス語フランス文学会の会員およびバルザック研究会の協力を得て、41名の方々からご寄稿いただきました。また、柏木先生が会長として大きく育成されてきた『ガリア』今号においても、ご退職を記念する特別号を企画しました。論文12編が寄せられるとともに、柏木先生についてのエッセーを56編ご寄稿いただきました。エッセーのこの数は異例というほかありません。エッセー集は二つの部に分かれており、第一部は柏木先生が教授になられてから、非常勤講師としてお招きした学外の先生方がお寄せくださったエッセー25編より構成されています。第二部はガリア会員の方々からのご寄稿で、31編にのぼります。それらのエッセーはさまざまな立場、さまざまな角度から柏木先生像を浮き彫りにしています。フランス文学と日本文学についての博識ぶり、文学青年、教育への熱意、記憶力の良さ、人懐っこさ、茶目っ気…いろんな場におけるいろんなお姿と多彩な逸話、そこにはまぎれもなく素晴らしい人と人生が見えてきます。そしてすべての文章に友愛と敬愛がこもっています。

ある先生は柏木先生の阪大文学部赴任を「フランス革命」と呼ばれました。他の研究室との交流などほとんどなく、各専門の間の壁は厚いものでした。その壁に穴を開けたのが柏木先生でした。それは専門の垣根を取り払っていこうとする大学改革を先取りするものでもありました。『ガリア』会員の中に賛助会員の制度を設けられたのも柏木先生の提案によるものです。学問・研究を大学の中に閉じ込めるのではなく、社会一般の人々と分かち合うものであるという考えが底辺にあるのでしょう。これも昨今大学の社会貢献が喧伝されるはるか以前から柏木先生が実践されていたことでした。先生は授業を好み、酒席を好まれます。人が集

まり、顔と顔を会わせることを大切にし、挨拶しあい、言葉を交わすことを大事にしてこられた現われでしょう。

柏木先生は出会う人々に、実ににこやかに、友達のように、気安く話しかけられます。初対面でもまるで旧来の友人であるかのように思ってしまうものです。これぞまさしく「柏木マジック」です。相手が学生であっても、先生の態度は変わりません。でも同じように話しかけたら、おしかりを受けるのは必定です。挨拶の仕方、手紙の書き方、敬語の使い方などにおいて、先生は革命家ではなく、まったくの伝統主義者です。正しい伝統的な日本語を使うこと、これまた先生が重んじておられることです。人の輪を大切にするということは同時に人に対してデリカシーと尊敬の念を持つということなのです。

柏木先生にとっては、バルザックを研究することも、馬琴を講ずることも、料理に舌鼓を打ち、ワインを賞味することとほとんど差異はないのでしょう。書物を愛し、人を愛し、料理と酒を愛し、そしてこよなく人生を愛してこられた幸福な大学教授でいらっしゃる先生に実に多くのことを教わってきました。教室で、研究室で、教授会で、そしてもちろん酒席で、高らかに響く先生のお声は永遠に消えることなく皆の心の中に響いています。定年退職は単なる節目にしかすぎません。ますますのご活躍をお祈りしています。

2008年3月1日

柏木隆雄先生　略歴

平成20年2月29日現在

1944（昭和19）年8月10日	三重県松阪市に生まれる
1951（昭和26）年4月	松阪市立松阪第一小学校入学
1957（昭和32）年3月	同卒業
1957（昭和32）年4月	松阪市立殿町中学校入学
1960（昭和35）年3月	同卒業
1960（昭和35）年4月	三重県立松阪工業高校工業化学科入学
1963（昭和38）年3月	同卒業
1963（昭和38）年4月	住友金属工業株式会社入社（尼崎中央研究所勤務）
1965（昭和40）年3月	同退職
1965（昭和40）年4月	大阪大学文学部入学
1969（昭和44）年3月	大阪大学文学部（仏文学専攻）卒業
1969（昭和44）年4月	大阪大学大学院文学研究科修士課程（仏文学専攻）入学
1971（昭和46）年3月	同大学院文学研究科修士課程（仏文学専攻）修了
1971（昭和46）年4月	同大学院文学研究科博士課程（仏文学専攻）進学
1975（昭和50）年3月	同大学院文学研究科博士課程（仏文学専攻）単位修得退学
1975（昭和50）年4月	神戸女学院大学文学部専任講師
1978（昭和53）年4月	同助教授
1981（昭和56）年10月	パリ第七大学第Ⅲ期博士課程入学
1982（昭和57）年6月	同大学第Ⅲ期博士学位取得
1983（昭和58）年4月	大阪大学文学部助教授
1991（平成3）年4月	大阪大学文学部教授（仏文学講座）
1999（平成11）年4月	大阪大学大学院文学研究科教授（フランス文学専門分野）
1999（平成11）年6月	大阪大学評議員（2001年3月まで）
1999（平成11）年4月	日本学術審議会専門委員（2000年3月まで）
1999（平成11）年8月	フランス共和国文部省よりパルム・アカデミック勲章（シュヴァリエ）受章
2001（平成13）年6月	日本フランス語フランス文学会副会長（2003年5月まで）
2003（平成15）年6月	日本フランス語フランス文学会副会長（2005年5月まで）
2003（平成15）年6月	大学評価・学位授与機構評価専門委員（2004年3月まで）
2004（平成16）年4月	大阪大学大学院文学研究科長、文学部長（2006年3月まで）
2006（平成18）年6月	日本フランス語フランス文学会関西支部長（2009年5月まで）

非常勤講師歴

1971年4月	追手門学院大学非常勤講師（フランス語）（1975年まで）
1971年4月	大阪成蹊女子短期大学非常勤講師（フランス語）
1974年4月	大手前女子大学文学部非常勤講師（フランス文学・フランス語）
1975年4月	大阪大学言語文化部非常勤講師（フランス語）
1977年4月	関西学院大学法学部非常勤講師（フランス語）（1979年まで）
1978年4月	関西学院大学商学部非常勤講師（フランス語）
1983年4月	神戸女学院大学文学部非常勤講師（フランス文学・フランス語）
1985年4月	同（1988年まで）
1988年4月	広島大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
1989年4月	京都大学人文研究所非常勤講師（共同研究員）
1992年4月	九州大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
1992年4月	富山大学人文学部非常勤講師（比較文学）
1993年4月	大阪市立大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
1993年4月	大阪樟陰女子大学文学部非常勤講師（比較文学）
1995年4月	愛知県立大学外国語学部非常勤講師（フランス文学）
1995年4月	大阪樟陰女子大学文学部非常勤講師（比較文学）
1996年4月	神戸女学院大学大学院非常勤講師（フランス語学）（1998年まで）
1997年4月	京都大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
1998年4月	熊本大学文学部非常勤講師（フランス文学）
1998年4月	東北大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
1999年4月	愛媛大学法文学部非常勤講師（フランス文学）
1999年4月	大阪樟陰女子大学文学部非常勤講師（比較文学）
2001年4月	広島大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
2001年4月	大阪樟陰女子大学文学部非常勤講師（比較文学）
2001年10月	東京大学大学院地域研究学科併任教授（フランス文学）（2002年まで）
2002年4月	岡山大学文学部・文学研究科非常勤講師（フランス文学）
2002年4月	愛知県立大学外国語学部非常勤講師（フランス文学）
2003年4月	東京大学人文学研究科非常勤講師（フランス文学）
2006年4月	愛媛大学法文学部非常勤講師（フランス文学）
2006年4月	広島大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師（フランス文学）
2006年8月	放送大学面接授業（比較文学）（8月18日、19日）

柏木隆雄先生研究業績目録

平成20年2月29日現在

著書（単著）

1. *La Trilogie des* Célibataires *d'Honoré de Balzac*, Paris, Nizet, 1983年10月
2. 『イメージの狩人　評伝ジュール・ルナール』、臨川選書17、臨川書店、1999年4月
3. 『謎とき「人間喜劇」』ちくま学芸文庫、筑摩書房、2000年5月
4. *Balzac, romancier du regard*, Paris, Nizet, 2002年10月
5. 『水鳥荘文庫目録』（私家版）、目録由来、凡例、2003年3月
6. 『交差するまなざし』、朝日出版社、近刊
7. 『人とともに　本とともに』、朝日出版社、近刊

共著（編著書）

1. 編注Honoré de Balzac, *La Grenadière*, 駿河台出版社、1977年4月
2. 編注Honoré de Balzac, *La Maîtresse de notre colonel,* 駿河台出版社、1979年4月
3. 『フランス語散策』、白水社、1982年4月
4. 『幻想空間の東西―フランス文学をとおしてみた泉鏡花』　「妖異の語り方 ― 泉鏡花とフランス文学 ―」、十月社、1990年1月
5. 『異文化の交流』　「留学の効用」、大阪大学出版会、1996年10月
6. 『Et vous？（あなたとフランス語で）』、青山社、1999年4月
7. 『バルザック ― 生誕200年記念論集』　「『アルベール・サヴァリュス』― 声とまなざし ―」、駿河台出版社、1999年10月
8. 『ヴィクトリア朝 ― 文学・芸術・歴史 ― 松村昌家教授古稀記念論集』「ディケンズとフランス」、英宝社、1999年11月
9. 『バルザック関連文献目録』　「前書き」「凡例」、文部省科学研究費報告書・資料、2002年11月
10. 『新・フランス語文法』、朝日出版社、2003年1月
11. 『バルザックとこだわりフランス　ちょっといい旅』　「読者のみなさんへ」「バルザックと地理」、恒星出版、2003年3月
12. 『エクリチュールの冒険 ― 新編・フランス文学史』　「エクリチュールの冒険 ― フランス文学の醍醐味 ―」「市民演劇の展開」「市民小説の系譜」「あとがき」、大阪大学出版会、2003年12月
13. 『レクチュールの冒険 ― 新編・フランス文学選 ―』　「まえがき」ほか、朝日出版社、2004年11月
14. 『フランス文学小事典』、朝日出版社、2007年3月

共著（単行本所収論文）

1. 漱石の初期作品とプロスペル・メリメ、『漱石における東と西』、主婦の友社、1977年11月
2. 漱石とメリメ ― 美彌子の肖像をめぐって ―、作家の世界『夏目漱石』、番町書房、1977年11月
3. 出会いの詩学 ―『谷間の百合』における愛と死 ―、『愛と死 ― エロスのゆくえ ―』、大阪創元社、1987年10月
4. Lamartine, *L'Isolement*をめぐって―*Méditations poétiques*における自然、『フランスの文学と芸術における自然と人間の発見』、行路社、1990年３月
5. 明治文学とフランス文学、『日本文学と外国文学 ― 入門比較文学 ―』、英宝社、1990年８月
6. 『いとこベット』の深淵 ― ヴァレリィ・マルネフの性、『性のポリフォニー ― その実像と歴史をたずねて』、世界思想社、1990年10月
7. 墓地からの光景 ― ロマン主義時代の文学的トポス、『フランス・ロマン主義と現代』、筑摩書房、1991年３月
8. ジュール・ルナールの挑戦、『象徴主義の光と影』、ミネルヴァ書房、1997年10月
9. フランス古典主義演劇とその理論、『芸術学フォーラム７　文芸・演劇の諸相』、勁草書房、1997年12月
10. Daumier et Balzac, *Balzac et la peinture*, Musée des beaux-arts de Tours, 1999年５月
11. 誘惑のディスクール ―『田舎ミューズ』から『ボヴァリー夫人』へ ―、名古屋大学文学部創設50周年記念企画シンポジウム『今こそフローベールを読み返す』、1999年７月
12. 太宰治とメリメ、『太宰治研究 ７』、和泉書院、2000年２月
13. 竹友藻風とヴェルレーヌ ― 学匠詩人の面目、『藤井治彦先生退官記念論文集』、英宝社、2000年３月
14. L'échec de la Reine de cœur, un homme et une femme dans *Le Bal de Sceaux, Balzac loin de nous, près de nous*, Surugadai-Shuppansha, 2001年４月
15. いとこポンスのコレクション、『バルザックを読む１』、藤原書店、2003年４月
16. 「美しき諍い女」カトリーヌ・レスコーとは誰か、『視覚芸術と比較文化』、思文閣出版、2004年５月
17. フランス人の見た幕末日本、『日本、もう一つの顔』、阪大フォーラム2004、2005年２月
18. ゾラ、紅葉、荷風 ― 明治文学の間テクスト性 ―、『ゾラの可能性　表象・科学・身体』、藤原書店、2005年６月
19. 「無神論者のミサ」論、『シュンポシオン ― 高岡幸一教授退職記念論文集』、朝日出版社、2006年３月

20. 「フランス」との邂逅、『日仏交感の近代 ― 文学・美術・音楽 ―』、京都大学学術出版会、2006年5月
21. Démons et revenants dans les *Contes de pluie et de lune* d'Uéda Akinari, *Figures du fantastique dans les contes et nouvelles*, Publications Orientalistes de France, 2006年10月
22. 『ヴィヨンの妻』の周辺、『太宰治研究 15』、和泉書院、2007年6月

単行論文

1. 芥川龍之介に見るプロスペル・メリメ ― 『秋』と『二重の誤解』をめぐって ―、*GALLIA*, X-XI , 1971年8月
2. 二人の怪異作家 ― 泉鏡花に見るプロスペル・メリメ ―、*GALLIA,* XII, 1973年3月
3. *Mémoires de deux jeunes mariées* 小論、『大手前女子大学論集』第8号、1974年11月
4. *Scènes de la vie privée* の世界 ―『人間喜劇』論の序章として ―、『待兼山論叢』第8号、1975年2月
5. 『トレドの真珠』小考、『神戸女学院大学論集』第65号、1976年3月
6. 漱石とメリメ ― 美彌子の肖像をめぐって ―、『英語青年』、1977年1月
7. バルザック『ユルシュル・ミルゥエ』の構造と意味、『神戸女学院大学論集』第69号、1978年7月
8. 『ウジェニィ・グランデ』献辞考、*GALLIA,* XVIII, 1979年8月
9. *Eugénie Grandet* における lumière、『フランス語フランス文学研究』第35号、1979年10月
10. 小説『ピエレット』の成立、『神戸女学院大学論集』第76号、1979年12月
11. 『トゥールの司祭』小考、『神戸女学院大学論集』第78号、1980年9月
12. 中原中也『湖上』試論 ― 中也とフランス詩 ―、『神戸女学院大学論集』第80号、1981年3月
13 バルザック『ラ・ラブイユーズ』考 ― フロール・ブラジエの生をめぐって ―、『神戸女学院大学論集』第81号、1981年10月
14. Analyse idéologique de la trilogie des *Célibataires* d'Honoré de Balzac, Thèse de Doctorat de 3ème cycle, Université Paris VII, 1982年6月
15. Le rôle et la signification du célibataire dans *Physiologie du mariage*, *GALLIA,* XXI-XXII, 1983年3月
16. 『ファチーノ・カーネ』小考、*GALLIA,* XXIII, 1984年3月
17. パリ ― 1831年の文学的構図 ―、大阪大学文学部共同研究センター共同研究論集第2輯「都市史をめぐる諸問題」、1984年8月
18. La structure et la signification des *Parisiens en province*, *Études de langue et littérature françaises*, n° 50, 1987年3月
19. Qu'est-ce qu'ils ont vu du haut de Paris — Sur le destin des héros balzaciens :

Eugène de Rastignac et Lucien de Rubempré —, *GALLIA,* XXVII, 1988年 3 月

20. Une lecture du *Lys dans la vallée* : un essai d'interprétation iconographique, *Equinoxe*, n° 3, 1989年 3 月
21. 鏡花・メリメ・ユゴー — 受容の問題 —、『文学』第57巻第 9 号、岩波書店、1989年 9 月
22. 『人間喜劇』の「序」をめぐって — バルザックとロマン主義管見 —、*GALLIA,* XXIX, 1990年 3 月
23. 小説家ジュール・ジャナン、『流域』第30号、1991年 7 月
24. 『ソーの舞踏会』小論、*GALLIA,* XXXI, 1992年 3 月
25. Le cimetière parisien et le destin des héros romantiques — Un essai sur le topique du romantisme —, *Equinoxe*, n° 10, 1993年 6 月
26. Catherine Lescault, qui est-ce ? — *Le Chef-d'œuvre inconnu*, roman d'amour ou roman de peinture ? — (2), 『待兼山論叢』第27号、1993年12月
27. 紅葉の古さ、新しさ — ゾラの翻案をめぐって —、『尾崎紅葉全集』第 5 巻月報、岩波書店、1994年 2 月
28. *Le Chef-d'œuvre inconnu*, conte d'amour ou conte de peinture ?, *Equinoxe*, n° 11, 1994年 4 月
29. テクストの変貌 —『知られざる傑作』を読む —、『ユリイカ』12月号、青土社、1994年11月
30. Émile Zola à l'aube de la littérature japonaise contemporaine, *GALLIA,* XXXV, 1996年 3 月
31. ジュール・ルナールと日本、『流域』 第37号、1996年 6 月
32. La Poétique balzacienne sur *Facino Cane*, *L'Année balzacienne 1999*, 2000年12月
33. Cent ans d'études balzaciennes au Japon, *GALLIA,* XL, 2001年 3 月
34. Avant-propos ou Cent ans d'études balzaciennes au Japon, *Equinoxe*, n° 19, 2001年 5 月
35. La voix et le regard dans *Albert Savarus*, *Equinoxe*, n° 19, 2001年 5 月
36. 短編小説の楽しみ 1 『マテオ・ファルコネ』、『ふらんす』10月号、2001年 9 月
37. 短編小説の楽しみ 2 『海辺の悲劇』、『ふらんす』11月号、2001年10月
38. 短編小説の楽しみ 3 『ヴェンデッタ』、『ふらんす』12月号、2001年11月
39. 短編小説の楽しみ 4 『にんじん』、『ふらんす』 1 月号、2001年12月
40. 短編小説の楽しみ 5 『ヴェラ』、『ふらんす』 2 月号、2002年 1 月
41. 短編小説の楽しみ 6 『最後の授業』、『ふらんす』 3 月号、2002年 2 月
42. 『ゴリオ爺さん』における「知ること」、『大阪大学大学院文学研究科紀要』第42巻、2002年 3 月
43. 日本文学の内と外 — ジュール・ルナールの受容をめぐって —、『大阪大学大学院広域文化研究報告書』、2002年 3 月

44. バルザックと馬琴、『バルザックと周辺領域における文化史的背景の研究』文部省科学研究成果報告書、2002年３月
45. バルザックと馬琴、『獨協大学国際フォーラム2001年度報告書』、2002年12月
46. ゾラ、紅葉、花袋 ― 日本近代小説への道 ―、『環』、藤原書店、2003年１月
47. バルザック『シャベール大佐』における「まなざし」、『関西フランス語フランス文学』第９号、2003年４月
48. フランスにおける19世紀研究、「ヴィクトリア朝研究・ニューズ」第２号、2003年５月
49. プロスペル・メリメ『トレドの真珠』を＜読む＞、『文学』第４巻第６号、岩波書店、2003年11月
50. 幸田露伴　螺旋の回廊、『文学』第６巻第１号、岩波書店、2005年１月
51. Cent ans d'études balzaciennes au Japon, *STUDI FRANCESI*, n° 145, 2006年４月
52. モーパッサン『首飾り』を読む１、『ふらんす』４月号、2006年４月
53. モーパッサン『首飾り』を読む２、『ふらんす』５月号、2006年５月
54. モーパッサン『首飾り』を読む３、『ふらんす』６月号、2006年６月
55. モーパッサン『首飾り』を読む４、『ふらんす』７月号、2006年７月
56. 正岡子規の墓碑銘を読む―文学復権のために、『リュテス』第34号、小西嘉幸教授退任記念号、2007年３月

エッセー（フランス文学関係）

1. バルザック『人間喜劇』の魅力、読売新聞（大阪版夕刊）、1985年６月６日
2. 「バルザック年譜」「バルザック著作年表」「バルザック『人間喜劇』カタログ」、集英社ギャラリー『世界の文学・フランスⅠ』、集英社、1990年９月
3. 平成巷談『人間喜劇』（１）―（序章）バルザック、活字に魅せられた男、月刊『ASAHI』１月号、1992年12月
4. 平成巷談『人間喜劇』（２）― 映画の楽しみ・小説の愉しみ、月刊『ASAHI』４月号、1993年３月
5. 平成巷談『人間喜劇』（３）― 黄金の夢・浮世の夢、月刊『ASAHI』５月号、1993年４月
6. 平成巷談『人間喜劇』（４）― 貧の甍・富の甍、月刊『ASAHI』６月号、1993年５月
7. 平成巷談『人間喜劇』（５）― もういいかい・まあだだよ、月刊『ASAHI』７月号、1993年６月
8. 平成巷談『人間喜劇』（６）― 妹の影・人の影、月刊『ASAHI』８月号、1993年７月
9. 平成巷談『人間喜劇』（７）― 母の背中・女の胸、月刊『ASAHI』９月号、

1993年8月
10. 平成巷談『人間喜劇』（8）— 昨日の友・今日の敵、月刊『ASAHI』10月号、1993年9月
11. 平成巷談『人間喜劇』（9）— 男の涙・女の恋、月刊『ASAHI』11月号、1993年10月
12. 平成巷談『人間喜劇』（10）— 表の顔・裏の顔、月刊『ASAHI』12月号、1993年11月
13. 平成巷談『人間喜劇』（11）— 血の絆・心の絆、月刊『ASAHI』1月号、1993年12月
14. 平成巷談『人間喜劇』（12）— 明日の迷い・昨日の知恵、月刊『ASAHI』2月号、1994年1月
15. 平成巷談『人間喜劇』（13）— 選ばれる人・選ぶ人、月刊『ASAHI』3月号、1994年2月
16. 解説、『ルナール全集』第2巻、臨川書店、1995年1月
17. 解説、『ルナール全集』第4巻、臨川書店、1995年5月
18. 解説、『ルナール全集』第6巻、臨川書店、1995年9月
19. 解説、『ルナール全集』第8巻、臨川書店、1996年1月
20. 解説、『ルナール全集』第9巻、臨川書店、1996年3月
21. おもしろ真面目のファッション論、バルザック、『ファッション学のみかた』、AERA Mook「New学問のみかた」シリーズ、朝日新聞社、1996年11月
22. 二人のオノレ — ドーミエとバルザック —、伊丹市立美術館『ドーミエ展』カタログ、1997年10月
23. 日記索引、『ルナール全集』第16巻、臨川書店、1999年1月
24. バルザックと活字 — 生誕二百年によせて、『大学出版』41号、大学出版部協会、1999年4月
25. バルザック生誕200年、読売新聞（夕刊）、1999年6月17日
26. 日本におけるバルザック生誕200年、読売新聞（大阪版夕刊）、1999年6月18日
27. 逸品のコレクター小説『従兄ポンス』、『機』、藤原書店、1999年9月
28. 解説、『いとこポンス』、藤原書店、1999年9月
29. 「小説家」「詩人」「評論家」の項目、『歴史学事典⑧　人と仕事』、弘文堂、2001年1月
30. 『ル・リール』誌復刻に寄せて、本の友社、宣伝パンフレット、2002年9月
31. 「文芸批評」「文庫本」の項目、『歴史学事典⑪　宗教と学問』、弘文堂、2004年1月
32. 私のフランス語会話事始め、大阪大学文学研究科・文学部国際交流センター『室報』第49号、2004年9月
33. 南仏の「作家と出会う会」に参加して、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年

10月4日
34. フランス山峡の『雨月物語』、『懐徳』第73号、懐徳堂記念会、2005年2月
35. アムステルダム大学名誉教授フランソワーズ=ギユヨン名誉教授講演会（報告）、『懐徳』第35号、懐徳堂記念会、2005年2月
36. *Le Diable à Paris*復刻を喜ぶ、『新刊速報』、Athena Press、2005年5月
37. *Le Diable à Paris*復刻を喜ぶ、『*Le Diable à Paris*別冊解説』、Athena Press, 2006年9月

エッセー（その他）

1. 寮誌編集委員長を誅す、『とねやま』第11号、大阪大学刀根山寮、1967年11月
2. 手前味噌、『組合だより』、神戸女学院大学教職員組合、1976年3月
3. 友たち、『赤壁』第50号、松阪工業高校同工会、1976年8月
4. 六日の菖蒲「実見・実録スポーツ大会始末記」、『KOSMOS』第3号、1981年1月
5. 一年をふりかえって、『組合だより』、神戸女学院大学教職員組合、1981年3月
6. 退任の辞、『学報』第79号、神戸女学院大学、1983年1月
7. スリジー・ラ・サルの十日間、『学報』第78号、神戸女学院大学、1983年3月
8. ヨーロッパの精神、日本の精神 ― 国際化の時代に向かって ―、『赤壁』第66号、三重同工会、1992年8月
9. 「留学の効用」、大阪大学放送講座『異文化の交流・過去・現在・未来』大阪大学、1993年9月
10. 原亨吉先生、『大阪大学春秋』、1994年11月
11. 往時茫々、『大阪大学春秋』、1994年11月
12. 嵐寛寿郎・讃、『FB』第5号、1995年6月
13. 澤瀉久敬先生のこと、『命 澤瀉久敬追想集』、1997年2月
14. 「口上」「植苗づくし」「あとがき」、『友ありて・植苗勝弘華甲記念文集』、1998年2月
15. 旅の本あれこれ、『読書探検』、大阪大学生協書籍部、1998年2月
16. 吉川幸次郎の露伴ぎらい、『文学』季刊夏、第9巻第3号、1998年7月
17. 加地先生のこと、『孤剣 弧ならず』、加地伸行撰、私家版、1999年4月
18. 近況報告、『会報』43、大阪樟蔭女子大学国語国文学会、1999年7月
19. 教室は舞台、『ジ・アトレ』10月号、産経新聞社、2000年9月
20. 未来の図書館、『VERITAS』、神戸女学院大学図書館、2000年10月
21. 私の「なかじきり」―『謎とき「人間喜劇」』縁起 ―、『らぴす』第13号、2001年2月
22. 阪大仏文学研究室50周年・『ガリア』40号記念号の刊行にあたって、

GALLIA, XL, 2001年3月
23. 寄席とラジオと、松原天神寄席パンフレット、2001年5月
24. チャンバラ映画漫筆 ― 嵐寛寿郎のために ―、『創造と実践』第2号、大阪大学共通教育機構、2002年4月
25. 岩波『文学』の思い出、『文学』第4巻第3号、岩波書店、2003年5月
26. 小津映画の真髄、『三重小津フェスティヴァル2003』、小津安二郎生誕100年記念三重小津フェスティヴァル2003実行委員会、2003年6月
27. 国立大学の新しい出発、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年4月2日
28. 懐徳堂講座の思い出、『懐徳堂だより』、懐徳堂記念会、2004年4月
29. 講義情報、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年4月8日
30. 倦まず怠らず、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年4月19日
31. 私のプティット・マドレーヌ、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年4月24日
32. 宣長と秋成、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年5月7日
33. 平成の懐徳堂、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年5月13日
34. 天国のような場所、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年5月17日
35. 共通語、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年5月22日
36. グローバルな言語、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年6月2日
37. 包丁の外国語、読売新聞（大阪版夕刊）、2004年6月22日
38. 烏野守さんの書、『烏野守書画作品集』、2005年1月
39. はじめに、『大阪大学大学院文学研究科年報2004』研究・教育（2002-2003年度）、大阪大学大学院文学研究科、2005年3月
40. あとがき（岡野輝男先生追悼）、*GALLIA*, XLIV, 2005年3月
41. 待兼山の今、『同窓会ニューズ・レター』第4号、大阪大学文学部・文学研究科同窓会、2005年3月
42. 堀口博信氏の画業、『堀口博信画集』私家版、2005年8月
43. 図書館あれこれ、『大阪大学図書館報』第39巻、第3号、2006年1月
44. 重建懐徳堂復元模型成る、『懐徳堂センター報2006』、大阪大学文学研究科・文学部懐徳堂センター、2006年2月
45. 原野先生のこと、『広島大学フランス文学研究』第24号、原野昇教授ご退職記念特集号、広島大学フランス文学研究会、2006年3月
46. 澤美枝女史の死を悼んで、『懐徳』第74号、2006年3月
47. 高岡幸一教授退職にあたって、*GALLIA*, XLV, 2006年3月
48. 着物姿の似合う大先輩、*GALLIA*, XLV, 2006年3月
49. 追悼　黒岡浩一君、*GALLIA*, XLV, 2006年3月
50. 文学部玄関ロビーに重建懐徳堂復元模型、『阪大文学部同窓会ニュース』、大阪大学文学研究科・文学部　同窓会、2006年3月
51. はじめに、『大阪大学文学研究科　外部評価報告書　2005』、大阪大学文学研究科、2006年3月
52. 懐徳堂サロンのこと、『懐徳堂記念会だより』第74号、2006年4月

53. 吉田城さんのこと、『仏文研究』吉田城先生追悼特別号、京都大学フランス語フランス文学研究会、2006年6月
54. 大学[改革]と文学研究の現状、『IDE現代の高等教育』第486号、IDE大学協会、2006年11月
55. あの頃の『ガリア』と私、*Web Gallia,* 2006年11月
56. 井阪仁氏の画業、同絵画カタログ、私家版、2007年3月
57. 先生と私、『共通教育だより』第32号、大阪大学大学教育実践センター、2007年9月

書評・評価

1. 鈴木昭一郎著『スタンダール』、『流域』 第31号、1991年12月
2. ロール・シュルヴィル著・大竹仁子/中村加津訳『わが兄バルザック』、信濃毎日新聞、1993年5月30日
3. 赤木昭三著『近代フランスの反宗教思想 ― リベルタンと地下写本』、信濃毎日新聞、1994年3月13日
4. 稲垣直樹著『ヴィクトル・ユゴーと降霊術』、『流域』第37号、1994年7月
5. ロベルト・ザッペーリ著・大黒俊二/金崎春幸/北村卓/小林宣之/三野博司/三宅祥雄訳『妊娠した男』、『読書探検』、大阪大学生協書籍部、1995年10月
6. 山崎正和著『船は帆船よ』の「不在」、『幕間』、1995年10月
7. 河村民部著『山頂に向かう想像力』、『英語青年』 3月号、1997年2月
8. 宇仁菅勇氏の詩集『倉吉の蜜蜂園にて』、日本海新聞、1998年7月27日
9. 芳川泰久著『闘う小説家バルザック』、『文學界』 8月号、文芸春秋、1999年8月
10. アンリ・トロワイヤ著・尾河直哉訳『バルザック伝』、『ふらんす』 2月号、2001年1月
11. フランス文学研究室についての評価と提言、『名古屋大学大学院文学研究科外部評価ピア・レビュー報告書』、名古屋大学大学院文学研究科、2005年3月
12. ジャン＝ジャック・オリガス著『物と眼　明治文学論集』、『比較文学』第47巻、2005年5月
13. La Fortune de Victor Hugo, 『人環フォーラム2006』、京都大学人間環境学研究科、2006年3月
14. 小倉孝誠著『「感情教育」歴史・パリ・恋愛』、『ふらんす』11月号、2006年10月
15. 大阪市立大学フランス語フランス文学専修『外部評価報告書』、大阪市立大学大学院文学研究科、2007年3月
16. 原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』、『ふらんす』 5月号、2007年4月

17. 愛媛大学プロジェクトチーム編『えひめ　知の創造　愛媛大学の挑戦』、愛媛新聞、2007年4月
18. 京都大学人文科学研究所『外部評価報告書』、京都大学人文科学研究所、2007年5月
19. 私市保彦訳・バルザック『百歳の人』、『週刊読書人』、2007年6月
20. 稲垣直樹著『フランス〈心霊科学〉考 ― 宗教と科学のフロンティア』、『ふらんす』1月号、2007年12月
21. 私市保彦著『名編集者エッツェルと巨匠たち ― フランス文学秘史』、『比較文学』第50号、近刊

翻訳（個人訳）

1. ボードレール「ウジェーヌ・ドラクロワ『獄中のタッソー』に」、藤井治彦・藤田実共編注『Kenneth Clark The Romantic Rebellion I』、英宝社、1975年12月
2. フランソワ・ヴィヨン「恋人に与ふる歌」、『KOSMOS』創刊号、あしび会同人、1979年2月
3. シャルル・ドルレアン「うたⅠ，Ⅱ，Ⅲ」、『第31回神戸中央合唱団音楽会プログラム』、1979年6月
4. 『ねなしかずら』、『ルナール全集』第2巻、臨川書店、1995年1月
5. 『葡萄畑の葡萄作り』、『ルナール全集』第4巻、臨川書店、1995年5月
6. 「ミシュレ」「テーヌ」「メーストル」、『フランス革命事典』2、みすず書房、1995年9月
7. 『エロワの石盤ノート』ほか、『ルナール全集』第10巻、臨川書店、1996年5月
8. 『いとこポンス』「バルザック『人間喜劇』コレクション13」、藤原書店、1999年9月
9. 「ミシュレ」「テーヌ」「メーストル」、『フランス革命事典7　歴史家』みすず書房、2000年12月

翻訳（共訳）

1. ロラン・ブルヌフ/レアル・ウエレ著『小説の世界』（まえがき・序章・第一章）、駿河台出版社、1993年7月
2. 『ラゴット』、『ルナール全集』第6巻、臨川書店、1995年9月
3. 『結婚の申込み』、『ルナール全集』第8巻、臨川書店、1996年1月
4. 『別れも愉し』、『ルナール全集』第8巻、臨川書店、1996年1月
5. 『日々のパン』、『ルナール全集』第8巻、臨川書店、1996年1月
6. 『ヴェルネ氏』、『ルナール全集』第8巻、臨川書店、1996年1月
7. 『田舎の一週間』、『ルナール全集』第8巻、臨川書店、1996年1月
8. 『ローズのいとこ』、『ルナール全集』第9巻、臨川書店、1996年3月

9. 『信心狂いの女』、『ルナール全集』第 9 巻、臨川書店、1996年 3 月
10. 『日記 3 』、『ルナール全集』第13巻、臨川書店、1997年 7 月
11. 『日記 4 』、『ルナール全集』第14巻、臨川書店、1997年11月
12. 『日記 5 』、『ルナール全集』第15巻、臨川書店、1998年12月
13. 『ベラン 世界地理大系 7 東ヨーロッパ』、朝倉書店、近刊
14. 『ベラン 世界地理大系 8 ロシア・中央アジア』、朝倉書店、近刊

対談、座談会、その他

1. 教授インタビュー「柏木隆雄教授 ― 心に響く作品の真髄に迫る ―」、Handai Walker, No. 69、2003年 9 月
2. 「読む」ことのすすめ、『文学』第 5 巻第 1 号、岩波書店、2004年 1 月
3. 座談会「八犬伝」再読、『文学』第 5 巻第 3 号、岩波書店、2004年 5 月
4. 懐徳堂サロン、スタート、Handai NEWS Letter, 大阪大学、2005年 6 月
5. 座談会「なにわよもやまばなし」、『やそしま』創刊号、上方文化芸能協会、2007年11月

口頭発表（1971 年以降）

1. 森鷗外訳『聖ジュリアン伝』について、日本フランス語フランス文学会関西支部会、神戸海星女子大学、1971.11.20.
2. 夏目漱石に見るプロスペル・メリメ、日本比較文学会、東京教育大学、1976.6.13.
3. 『ウジェニー・グランデ』における光、日本フランス語フランス文学会秋季大会、小樽商科大学、1978.11.
4. 中原中也の詩「湖上」について、日本比較文学会関西支部会、大阪外国語大学、1980.11.22.
5. *Les Parisiens en province* の構造と意味、日本フランス語フランス文学会秋季大会、新潟大学、1985.11.
6. Colloque international «Le moment de *La Comédie humaine* dans l'écrit balzacien — Génétique et textualité», C.N.R.S.–Université Paris VIII, 1988.6.10.
7. 泉鏡花とフランス文学、日本フランス語フランス文学会秋季大会シンポジウム、金沢大学、1988.10.23.
8. 「いまを生きる」 ― 映画と本と人と ―、東海・文化セミナー、㈱東海ソフト主催、ホテルサンルート名古屋、1990.5.26.
9. ヨーロッパの精神、日本の精神 ― 国際化の時代に向かって ―、三重県立松阪工業高等学校創立90周年記念講演、松阪市公民館、1991.11.1.
10. Table ronde : «Ce qu'on dit au roman à propos de fleurs», Journée d'études sur *Le Lys dans la vallée*, Maison de Balzac, 1993.6.
11. カトリーヌ・レスコーとは誰か？、日本フランス語フランス文学会関西支

部会、同志社大学、1993.11.20.

12. Le Japon littéraire — passé, présent et futur —, Maison du Japon à la Cité internationale universitaire de Paris, 1994.11.24.
13. La poésie orientale et la poésie occidentale, Université Paris XII, 1995.1.
14. ルナールと象徴主義、京都大学人文科学研究所、1996.4.27.
15. 外国人旅行者の見た幕末の日本、大阪大学文学部「近代日本のイメージ」共同研究、大阪大学、1996.5.30.
16. 『アルベール・サヴァリス』眼差しの小説、関西バルザック研究会、1996.8.24.
17. 異文化を知る — 幕末・明治の異文化接触　諭吉、漱石たちを中心に —、池田市中央公民館、1996.9.20.
18. 映画と小説の間 — 『知られざる傑作』をめぐって —、同志社大学、1996.11.15.
19. まなざしの文学 — バルザック『谷間の百合』を中心に —、「テクストと文化」セミナー、大阪外国語大学、1996.12.5.
20. ドーミエとバルザック、伊丹市立美術館、1997.10.12.
21. 二人の歌人・会津八一と吉野秀雄、茨木商工会議所、1998.6.16.
22. 鈴の舎の版木 — 思い出あれこれ —、松阪市中央公民館、1998.11.6.
23. バルザックとフローベール、名古屋大学創設50周年記念シンポジウム、1998.12.12.
24. La poétique balzacienne dans *Facino Cane*, Bicentenaire de la naissaince de Balzac, Colloque organisé par le Groupe d'études balzaciennes, Pallais du Luxembourg, salle Médicis, 1999.5.21.
25. バルザック生誕二百年「バルザックのおもしろさ — まなざしを読む —」、三重日仏協会、プラザ洞津、1999.7.11.
26. バルザック『ウジェニー・グランデ』を読む、三重日仏協会、2000.1.24.
27. La traduction de Balzac au Japon, Colloque Balzac organisé par le Groupe international des recherches balzaciennes, le Centre Culturel international de Cerisy-la-Salle, 2000.6.28.
28. 文学の内と外 — 日本の近代作家と西洋 — 大阪大学大学院文学研究科広域研究会、大阪大学待兼山会館、2000.9.21.
29. ジュール・ルナールと近代日本文学、三重日仏協会、2000.10.7.
30. 文学の面白さ、帝塚山学院シンポジウム、帝塚山学院大学、2001.3.5.
31. ブルジョワ覇権下のヒーローたち、ひょうご講座、神戸交通センター、2001.10.3.
32. 岸田國士とジュール・ルナール、日本比較文学会関西支部会講演、大阪大学、2001.11.10.
33. バルザックと瀧澤馬琴、獨協大学国際フォーラム公開講演、獨協大学、2001.12.7.

34. フランス人の見た幕末日本、京都大学人文科学研究所、2002.9.21.
35. ゾラと日本文学、ゾラ没後百年シンポジウム、日本フランス語フランス文学会秋季大会、九州大学、2002.10.26.
36. バルザック『シャベール大佐』におけるまなざし、日本フランス語フランス文学会関西支部会、大阪市立大学、2002.11.30.
37. ヴィクトル・ユゴーの世界 ― ユゴー生誕200年記念 ―、三重日仏協会、2003.1.
38. Emile Zola au Japon, Université de Strasbourg II – Marc Bloch, 2003.3.20.
39. 文学の楽しみ、羽曳野市第4回「畑田塾」講演、羽曳野市教育委員会文化財保護課、2003.3.29.
40. 幕末・明治の異文化交流、追手門大学公開講座「異文化を考える」、2003.4.11.
41. 「友情」の過去と現在 ― 文学の沃野から ―、「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」公開講座フェスタ2003、2003.11.1.
42. 太宰治とフランス文学、京都大学人文科学研究所、2003.12.20.
43. アルフォンス・ドーデ『最後の授業』をめぐって ― 南仏、アルザスそして日本 ―、三重日仏協会、2004.3.
44. Démons et revenants dans l'*Ugetsumonogatari* (*Contes de pluie et de lune*) d'Ueda Akinari, la neuvième Rencontres d'Aubrac, «Aubracadabra : Figures du fantastique dans les contes et nouvelles, conférences – Contes – Filmes», Sr-Chély d'Aubrac, 2004.8.27.
45. 横のものを縦にする ― 日本近代文学の秘密 ―、大阪大学総合博物館第3回企画展、大阪大学中之島センター、2004.9.18.
46. Le Japon vu par un français à la fin de l'époque d'Edo, «Le Japon, d'autres visages», Forum 2004 de l'Université d'Osaka à Strasbourg, Université de Strasbourg II – Marc Bloch, 2004.11.6.
47. 幕末日本とフランス、京都大学人文科学研究所、2004.12.18.
48. 洋学の系譜、三重日仏協会、津、2005.3.27.
49. 働くことの楽しさ、サラヤ（株）新入社員研修、懐徳堂法人講座、2005.4.6.
50. 古書の魅力 ― 水鳥荘文庫由来 ―、追手門大学公開講座「温故知新」、2005.4.13.
51. 学ぶことの楽しみ、懐徳堂サロン、大阪大学中ノ島センター、2005.5.22.
52. 古文の魅力 ― 叡山焼き討ち三体（司馬遼太郎、頼山陽、新井白石）、JCB社員教養講座、大林ビル、JCB大阪本社、2005.6.20.
53. 文学における時空、大阪大学総合博物館第4回企画展、大阪大学中之島センター、2005.9.18.
54. 懐徳堂の過去と現在、「サロン・ド・K」、ハービス大阪6階会議室、2005.9.21.

55. How did the Japanese learn the Dutch ?、大阪大学グローニンゲン事務所開所式・記念シンポジウム講演、グローニンゲン大学、2005.10.24.
56. パリの魅力 ― 本を片手に歩く ―、神戸女学院教育文化振興めぐみ会、ヒルトン・ホテル、2005.11.1.
57. 大阪商人の叡智 ― 懐徳堂の過去と現在、「西日本社長会」講演、JCB グループ主催、大津プリンスホテル、2005.11.10.
58. 月と酒、懐徳堂サロン、法然院、2005.11.18.
59. 『文学部』は何をするところか ― 子規の墓碑銘をめぐって ―、大阪大学大学院工学研究科フロアンティア機構講座、丸亀高校・今治西高校・尾道北高校・観音寺第一高校共催、扇町ビル、2006.1.31.
60. 正岡子規の墓碑銘をめぐって、小西嘉幸教授退官記念講演会、大阪市立大学、2006.3.25.
61. フランス人の見た幕末日本、三重日仏協会、2006 3.26.
62. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（1）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.4.14.
63. フランス小説の魅力、第 3 回懐徳堂サロン、長楽館（京都）、2006.4.15.
64. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（2）『五重塔』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.5.12.
65. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（3）『五重塔』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.6.9.
66. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（4）『太郎坊』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.7.14.
67. 西洋文学受容のありかた ― 夏目漱石、太宰治を例として ―、神戸市立外国語大学英文学研究室、2006.7.21.
68. 日本文学とフランス文学、放送大学面接授業、天王寺センター、2006.8.18-19.
69. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（5）『太郎坊』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.9.8.
70. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（6）『幻談』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.10.13.
71. 魯迅『藤野先生』と太宰治『惜別』について、同済大学（上海）、2006.11.3.
72. 魯迅『藤野先生』と太宰治『惜別』について、華東師範大学（上海）、2006.11.3.
73. 正岡子規の自筆墓碑銘をめぐって、上海外国語大学（上海）、2006.11.6.
74. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（7）『幻談』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.11.10.
75. 文章の力 ― 子規と漱石を中心に ―、樟陰セミナー、観音寺第一高校、2006.11.11.

76. 螺旋の回廊、幸田露伴を読む（８）『幻談』、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2006.12.8.
77. 私の「なかじきり」 ― 私の中に生きる松工 ―、松阪工業高校、2006.12.13.
78. フランソワ・ヴィヨンから太宰治『ヴィヨンの妻』へ、三重日仏協会、津、2007.3.18.
79. 偉大な失敗者の大いなる人生、カルペ・ディエムの会、於芦屋ラ・モール、2007.3.27.
80. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（１）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.4.13.
81. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（２）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.5.11.
82. 太宰治の挑戦 ― ヴィヨンから『ヴィヨンの妻』へ ― 大阪大学文学研究科共同プロジェクト、大阪大学大学院文学研究科第一会議室、2007.5.17.
83. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（３）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.6.8.
84. バルザック『谷間の百合』を読む、日仏文化講座CAF、神戸国際会館、2007.6.26.
85. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（４）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.7.13.
86. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（５）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.10.12.
87. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（６）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.11.9.
88. 馬琴と逍遥、日本比較文学会関西支部大会、シンポジウム「変革期の坪内逍遥」、近畿大学、2007.11.10.
89. 西洋文学の魅惑と味読 ― メリメ『トレドの真珠』をテクストとして ―、名古屋大学文学研究科「西洋文学を愉しく学ばせるための教材開発プロジェクト」、名古屋大学、2007.11.30.
90. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（７）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.12.14.
91. 『結婚財産契約』を読む、第71回関西バルザック研究会、近畿大学会館、2007.12.22
92. 螺旋の回廊、幸田露伴を読むⅡ『運命』（８）、懐徳堂古典講座、大阪大学中之島センター、2007.1.11.
93. 馬琴と「小説神髄」、平成20年度大阪大学国語国文学会総会、大阪大学、2008.1.12